

『 桧 水 』 Q & A

Q : 入浴に使用すると、どのような効果があるのか具体的に知りたい。

A : 雑品ですので、効能効果は表示できませんが、配合成分の効能を参考にしてください。

■ヒノキチオールの特効

「桧水」の主成分である台湾桧精油及び青森ヒバ精油に含有。

国産桧精油には含まれていない。

世界最古の木造建造物である奈良の法隆寺、伊勢神宮を初めとする全国の神社仏閣を支えているのが桧・ヒバ材なのです。

1. 殺菌・抗菌・消炎・防虫・防カビ作用がある。

1936年に野副哲男博士によって、台湾ヒノキ精油から初めてヒノキチオールの抽出に成功し、研究のすえ薬効が確認された。

2. 浸透力が強い。

皮膚深部に入って細胞の新陳代謝を正常化する働きがある。

ヒノキチールは、医学・薬学をはじめ、食品加工、寝具、服飾、化粧品など、多くの分野で利用されていますが、最近最も注目されているのがアトピー対策とMRSA（院内感染）対策への利用です。

アトピー性皮膚炎の増悪因子の一つである、黄色ブドウ球菌に対する薬効は科学的に裏付けされています。黄色ブドウ球菌は、人間と常に共生している菌ですが、健康な人に比べると、アトピーの方の皮膚には5倍以上の黄色ブドウ球菌が検出されます。

黄色ブドウ球菌が直接アトピー性皮膚炎のアレルゲンになることもさることながら、ダニ・カビ等のアレルゲンによる体内でのヒスタミン放出を飛躍的に増加させます。

■桧科植物のフィトンチッド（森林浴）効果

フィトンチッド [fitontsidy 露] 樹木、特に針葉樹が出す揮発性物質。その殺菌力が森林浴の効用の1つとされる。

約60年前に、ソ連のB.P.トキが提出した言葉で、フィトン（植物）とチッド（殺す）に由来している。ヨーロッパでは古くからアロマテラピー（芳香療法）が確立され、昨今日本でも流行の兆しが見えている。

ヒノキ精油の香りが、血圧を低下させ、作業効率を上昇させる傾向にあることが学会にて発表されています。また、ヒノキ精油に含まれる成分α-ピネンが疲労を軽減することも解っている。

■シソの葉エキス

シソの原産は中国中南部、ヒマラヤ、ビルマといわれ、東洋の温帯地方に広く栽培されている。日本には漢方として渡り、その薬効は、興奮性発汗、解熱、鎮咳、鎮痛、鎮静、利尿、健胃などに良いとされている。

近年、アミノアップ化学と帝京大学の山崎教授との共同開発研究の結果、抗アレルギー物質として注目されています。原料となるシソの葉は、北海道で減農薬栽培された青チリメンシソが使用されている。

シソ特有の芳香は、ペリルアルデヒドという成分ですが、この物質は、接触性の皮膚炎の原因となるため、この物質を除去したものがシソエキスとなります。

このシソエキスの抗アレルギー作用及びアトピー性皮膚炎に対する効果は、アレルギー学会・日本小児皮膚科学会等で発表されており、アトピー対策商材として健康食品または化粧品として既に市場に多く出回っています。

■ビタミンC

水道水に含まれる残留塩素の人体に及ぼす影響は恐ろしいものがあります。（別紙資料参照①）

特に皮膚の角質層を破壊しているアトピーのお子さんにとって、入浴中の残留塩素吸収がいかにか症状悪化につながるか容易に理解できると思います。その最悪なる残留塩素を処理するためにビタミンCが配合されています。

Q：なぜアトピーに桧・ヒバなのか、簡単に知りたい。

A：この商品はアトピー性皮膚炎を意識して開発されました。アトピーという言葉はもともとギリシャ語で“奇妙な”という意味ですが、現代医学では治癒できないことは事実です。地球環境の変化、生体系の変化、食生活の欧米化等々の要因に依るものと思われませんが、現代医学が生み出した医原病とも言えます。現代医学の限界が見え始めた昨今、古代医学的なもの（漢方・漢医薬・ハリ・灸・呼吸法・運動療法・精神療法・民間療法など）がより効果的であることがわかってきつつあります。日本の有史以前からの貴重な財産とも言えるものが「桧」「ヒバ」であり「ヒノキチオール」なのです。副作用のない天然成分が注目されるのはまさしく時代のニーズに即したものだと思えます。

Q：『桧水』は化粧品認可又は医薬部外品の認可を取らないのはなぜか。

A：化粧品も部外品も香料の配合パーセンテージが決められております。その決められた範囲で物造りを致しますと残念ながら皆様のご期待に添えるような物造りができません。『桧水』はその範囲にこだわらず、許認可よりも内容の良さでご理解頂く「こだわりの雑品の中の逸品」だと自負いたしております。

Q：入浴液が衣服等についた場合シミにならないか？

A：生地の種類によってはシミになるかもしれません。もし衣服にこぼした場合は、裏布をあて水を含んだ布で叩いてください。乳化剤を使用していますので簡単に落ちます。間違っても油シミにはなりません。但し、エキス配合タイプはシミになりますからご注意ください。

Q：入浴以外の活用方法は？

A：別紙資料を参照ください。

外部に資料を出す場合は、薬事法の問題がありますのでご注意ください。

Q：封を開けたらいつまでもつのか？

A：腐敗とか酸化は考えられませんので使用期限はございません。沈殿・分離等が生じる場合がありますが、これは天然原料を使用した場合の特徴とも言えます。その場合でも成分的には問題がありませんので、よく振ってからご使用ください。

開封のまま放置することは避けてください。香り成分が揮発しますので香りが薄くなります。

Q：アトピー性皮膚炎の薬などと併用して大丈夫か？

A：天然原料のみですので基本的には問題ないと思います。今迄の愛用者の体験から、いきなり薬を止めるよりも、併用しながら徐々に薬の量を減らしていくほうがいい結果が出るようです。特にステロイド剤の場合は、リバウンドが強くなる場合があるようですからご注意ください。

Q：混合して良くないものはあるか？

A：天然物であれば何を混ぜても問題ありませんが、常識的に身体に悪いもの、あるいは皮膚に異常をきたすものは避けてください。

Q：原液を飲んでしまった場合大丈夫か？

A：飲料品ではありませんので絶対飲まないでください。万が一間違っただけ飲んだ場合は、出来れば吐き出させるか、多めに水を飲ませてください。配合原料を見ればお解りのとおり、生薬的原料のみですので身体に異変をきたすような心配はありません。乳化剤も植物系の食品用を使用しております。

Q：植木にかけてもよいか？

A：植木に使用する場合は、10倍位に薄めて使ってください。虫除けになります。但し、植物も微妙な生き物ですので全ての植物にいいとはいえない切れません。乳化剤は、植物の成長促進に有効だというデータがあります。